

90歳の贈り物

先生、先生とのお別れは突然でした。

エレベーターの中で呼吸バッグが急に軽くなり

ふっと動きが無くなりました

みなからは大往生ですって

集中治療室での無言の授業を昼夜、受けているうち

あるいは僕は先生の魂にすぎるようになっていたのかもしれない

先生は一度だけ外の世界に反応しました

奥さんの声、奥さんのぬくもり、

先生は奥さんの手を力強く握り締め、その存在に涙を流したのですね

そう、やっぱり、僕は先生にたよっていたのです

家族に、蘇生術をしないように勧めておきながら

先生の青い唇を見たとき、先生にいつてほしくなかった

先生に14回電気ショックをかけた救急部をのしっておきながら

先生との別れを受止めきれなかった

僕の手は除細動器へ 跳ね上がる先生の体

一本線へと変わるモニター

みなは大往生だと言っています

それでも

奥さんは泣いてらっしゃいます。

僕も喪失感でいっぱいです

先生、一生忘れません、

先生が僕の心に遺してくださった

おおきな、おおきな

贈り物